

ミニフォーラム開催のご案内

平成 22 年 6 月 21 日

今般、下記によりミニフォーラムを開催しますので、ご案内致します。先着優先で受付させていただきますので、出席を予定される方は早めにご連絡を願います。

演題	「カンボジアにおける平和再建と日本の貢献―史上初めての文民警察官の PKO 活動」
講師	今川幸雄・元カンボジア大使
日時	7 月 26 日（月）午後 3 時～5 時
場所	グランドアーク半蔵門 3 階トパーズの間

開催趣旨：

平成 5 年、カンボジアは 20 年間の流血の内戦に終止符を打ち、国連監視の下で全国民参加の選挙によって新政府を樹立して再出発した。日本は対立する 4 当事者に対して粘り強く働きかけて停戦を実現、国連暫定統治機構 UNTAC と連携して和平実現と復興に尽力し、その功績は戦後外交史上初の積極的「創造型外交」のモデルと高く評価されている。また、国連にとってもカンボジアでの平和維持活動は数多くの平和維持活動の中でもっとも成功したサクセス・ストーリーといわれている。しかしながら、この過程でわが国が派遣した初の文民警察官の高田警視と邦人ボランティアの 1 人が犠牲者となった。

その後も世界各地で地域紛争や内戦が繰り返され国連の平和維持活動が展開されているが、いまや紛争国家の再建にあたって文民警察の役割は一段と拡大し、その活動にますます大きな期待が寄せられている。日本警察の国際協力は警察庁の国際協力推進要綱を受け、年々、拡充し、高く評価されているが、要綱策定後、5 年を経過した。一方、新たに誕生した民主党政権は PKO 活動への積極的参加を公約に掲げているところから、わが国の文民警察への対応についてあらためて関心が集まっている。今後、日本警察の国際協力、とくに文民警察を考えるにあたってはわが国警察の特性、派遣先の国情等を仔細に検討することは当然であるが、カンボジアでの貴重な教訓はいまなお拳拳服膺することが多い。日本警察隊を現地大使として物心両面から支援し、その奮闘と功績を共有された今川大使の講演はこの問題を考える上で示唆に富む有益な素材を提供してくれるものと思われる。

参加連絡先：

警察政策学会事務局（〒102-0093 千代田区平河町1-5-5）

TEL 3 2 3 0 - 2 9 1 8、3 2 3 0 - 7 5 2 0 fax 3 2 3 0 - 7 0 0 7

mail : asss2@taiyokyosai.jp

講師プロフィール

今川幸雄氏（昭和7年7月、東京都出身）

早稲田大学政経学部卒業後、昭和31年、外務省入省。本省のほか、カンボジア、フランス、ラオス、ベトナム、アルジェリア等に在勤。

昭和60年、在マルセイユ日本国総領事
同63年、在フランス日本国大使館公使
平成2年、在タイ日本国大使館公使
同3年、カンボジア最高国民評議会担当大使
同4年、駐カンボジア日本国特命全権大使
同8年、外務省を退官。

その後、関東学園大学教授（法学部長、大学院法学研究科長等歴任）のかたわら、平成15年まで上智大学文化研究所客員教授、平成18年には国立フィリピン大学大学院アジア研究所客員教授を兼任。

現在は、関東学園大学名誉教授、社団法人日本カンボジア協会会長、日本クメール学研究会会長、情報通信行政・郵政行政審議会専門委員、認定NPO法人・JHP学校を作る会名誉顧問、小山内美江子国際ボランティア・カレッジ副塾長。

著書等、多数。主なものは次の通り。

「カンボジアと日本」（2000年、連合出版会）

「ベトナムと日本」（2002年、連合出版会）

オーラル・ヒストリー「カンボジア和平と日本外交」（2005年、政策研究大学院大学）

「新刊現代カンボジア風土記」（2006年、連合出版会）

「アンコールの芸術」（1962年、大塚巧芸社）

「アンコールの遺跡—カンボジアの文化と芸術」（1969年、霞ヶ関出版会）

「アンコールの遺跡—カンボジア民族文化遺産」（1996年、ぱんたか社）